

## 「牛」になつての大山詣り

池田 隆

妻の老化が年長の私よりも早いようで心配である。年相応の物忘れなどは致し方ないが、以前に比べ積極性が特になくなった。老化防止にはウォーキングが効果あるという。毎日誘い出し、二人で周辺を散歩するように努めている。それもややマンネリ気分になつたようだ。新しい妙案はないだろうか。

自宅から遠くの大山を眺めていると頭に浮かぶ。大山街道歩きを何回かに分けてやってみよう。「牛に引かれて善光寺参り」という諺がある。老女が牛の角に引っ掛けられた布にすぎり、知らぬ間に善光寺まで行った逸話だ。私が「牛」の代役を務める。途中で妻が手を放さぬよう用心しながら。

さっそく旧大山街道のウォーキング・マップを買い求め、二子玉川駅より歩き出す。二子橋を渡ると、二子・溝口の旧宿場町である。車と歩行者がすれ違う狭い道に昭和の臭いが漂う。二子神社の前に立つ大山燈籠の説明書きに、「大山詣りは江戸中期より庶民に広がり、・・・」とある。岡本かの子の生家跡、創業宝暦年間と謳った古い店、大山街道ふるさと館などを過ぎ、溝口神社の境内では早咲きの紅梅を愛でながらの小憩。初日はまず溝の口駅まで。

二丁目以降は溝の口から宮前平、江田、青葉台、長津田、すずかけ台と、駅での乗り降りを繰返しながら、田園都市線にほぼ沿った旧街道を辿って行く。この地域は東急が広域開発した閑静な住宅街で道路網が整い、歩きやすい。ただ複雑な丘陵地帯で急坂が多く、老人泣かせである。

ゆっくり歩き、公園のベンチではしばしば休むのだが、妻は「アー疲れた、もう駄目!」とすぐに音をあげる。こちらは計画実行に不安を覚える。

それでも八丁目には第一目標地点の南町田グランベリーパークへ到着する。傍の境川は武蔵と相模の国境である。洋食屋「アメリカンハウス」に入り、ワイルドウエストオニオンなどを注文し乾杯、窓からは大山もくつきり。妻は「次は?」と、この先に関心と意欲を見せ始める。食後さらに小田急線の鶴間まで歩く。

